

地域資源マップ 16班



宮崎大学地域資源創成学部1年 地域学基礎16班
(安藤伶王・上埜五喜・池田遥奏・河野桜・藤本心湖)



①都農神社

日向国一之宮の格式をもつ古社。
縁結び、子授け、病氣平癒、商売繁盛など多くの御神徳がある。また、あぶら石という目標達成、願いをかなえるパワースポットがある。**石持ち神事**というあぶら石近くや道の駅つのから石を持って拝殿前に積み上げる参拝方法があり、行うことでより大きな利益を得ることができるといわれている。拝殿の近くに池があり、鯉が飼育されている。
(餌やり可能)
拝殿向かって左側には毎月募集される川柳が掲示されている。
(安藤)



②道の駅つの

宮崎県で15番目に登録された道の駅。都農町の口蹄疫被害の復興の起爆剤となるべく2013年に開駅した。
施設内には350名を超える生産者さんから届く地域の新鮮な野菜・フルーツ、また土産物が販売されている直売所、そば、ソフトクリームなどを楽しめるフードコート、町周辺の観光地の情報やパンフレットが置いてあり、休憩も可能な情報休憩コーナー、その他トイレなどがある。我々がフィールドワークに行った際は、隣の広場でフリーマーケットが開催されており、**都農町の観光客の拠点となっているほか、町民の交流の場となっていることもうかがえる。**
施設自体や周辺の都農神社等の地域資源は大いに活用されているが、例えば、道の駅から少し遠めの観光地などに人を流すことができればいいのではと考えた。
(上埜)



③川

地図上の川は都農川である。町中心部にはレトロな石造り風の橋や道の駅と都農神社を結ぶ「開運橋」などユニークな橋がたくさん架かっていた。河川敷は狭小であり何かにできると感じるではない。おそらく、農業用水にも活用されているのではないかと。(上埜)



④赤木家住宅

都農町唯一の**国指定有形重要文化財**。重要文化財として指定されているのは、主屋だけでなく、蔵や納屋も対象になっている。観光資源として「活用方法は住宅内の見学等で活用できるのではないかと考えたが、もしものことがあったら最悪の場合、都農町唯一の有形重要文化財がなくなってしまうかねない。観光資源として活用するうえでは、メリットもデメリットも大きすぎるため慎重になる必要性をよく感じる。
歴史的価値も建造物の価値も非常に高いため、現状よりも活用すべきだと感じたものの、活用方法は要検討が必要である。(池田)



⑤山中菓子舗

創業68年のパティスリー。地元食材を使ったお菓子やケーキが人気のお店。お土産用のお菓子はもちろん、オーダーケーキも人気。世界での生産量が10%程度しかない希少なカカオ豆と地元産の大豆から作られた豆乳で作られた**豆腐のボンボン・ショコラ**はJR九州の寝台列車「ななつ星in九州」でのデザートとして提供されている。
目の前とすぐ横が道路となっており、駐車場がない。そのため、店舗を訪れた車は路肩近くの駐車場に停めるしかない。専用の駐車場があれば利便性が向上すると感じた。
(河野)



⑥カヤシマ

1953年創業の宮崎県に3か所、大分県に1か所展開する総合衣料品店。
服、寝具、インテリア、季節のアイテムなど品ぞろえ豊富。国道沿いにあることや河童の像があり、わかりやすく、立ち寄りやすい。
都農町では昔からあり、地域密着型のお店。
また、駐車場には都農にも伝わる、伝承のひょうすんぽと呼ばれる河童の像があるが、**カヤシマとは関係ない。**
(安藤)



⑦BUNMEI

パンやお弁当などを販売する**地域交流拠点**。2021年3月に築90年以上の旧金物店をリノベーションして開設された。2Fは**一般財団法人つの未来まちづくり推進機構本社**。ウェアラブル端末についての相談も受け付けている。中高生から大学生向けキャリア相談や対話の場としても活用されている。
しかし、窓が閉め切っていて中が見えないため、中の様子や開店しているのかすらわかりづらい。窓に一枚貼り紙がある以外何も情報がないのももっと大きめのポスターを貼ってわかりやすく宣伝してみてもいいのではと感じた。(河野)



⑧ブドウ畑

周辺には複数のブドウ畑が広がっており、この地域でも果樹栽培が盛んなことが分かった。**地域の特産品であるブドウの生産が地域農業を支える重要な産業の一つ**になっている。
また、ビニールハウスが整備されていることから生産性向上のための工夫が行われていたといえる。
住宅地や国道沿いにも畑があったことから、農業と生活が身近に共存している地域の特徴を感じた。(藤本)



⑨島田青果

道の駅同様に、地域の農家の野菜・果物の直売所となっていた。中に入ると、ただ野菜・果物が売っているだけでなく、燕の巣が複数あり、店内を燕が飛び回っていた。**燕がいる直売所**として観光にも使えそうだと感じたが、逆に鳥類が苦手という人がいたら、弱点にもなりかねない「**諸刃の剣**」的な資源になってしまうのではないかと感じた。
ただ、店内で売っている商品はどれも安く、感じたので地域の方も結構訪れていたため、地域の方からは安くで食材が手に入る、**重宝されるべき居場所**なのではないかと感じた。(池田)



⑩喫茶たいむ

店内では地域の人々が食事や会話を楽しんでいる様子が見られた。常連客と思われる人同士や店員との交流もあり、温かい雰囲気が感じられた。
飲食の提供だけでなく、地域住民のコミュニケーションの場としての役割も果たしていると考えられる。
また、**地域の喫茶店として、人々の憩いの場や交流の場所になっていることが分かった。**(藤本)



反省

今回のフィールドワークではまだ経験も少なく、まとめや分析は地域資源の羅列になってしまったが、次のフィールドワークでは、講義などである程度の地域についての知識を身に付け、集めた情報を関連付けて新たなものが見えてこないか、などといった視点で分析できればさらに良いものとなるのではないかと感じた。(上埜)

都農町のどんな点にフォーカスするか決めていない状態で臨んだので、フィールドワーク中に「どうする?」となっていました。事前に計画を立てておいたり、もっと下調べをしたりするといった、計画性を持って準備をしておくべきだと思った。(安藤)

テーマらしいテーマをもっていかなかったため、とりあえず手当たり次第、写真撮ったり歩き回ったりといった感じだった。何をテーマにフィールドワークを行うのかなど、事前に決めておくべきことが多かった。(池田)

実際に訪れた際、どこを回ってどんな写真を撮るか迷ったので、事前調査や計画をもっとちゃんと練っておけばよかったと感じた。(河野)

今回のフィールドワークでは、実際に歩いたことで分かったこともあったが、地域の人にインタビューをすることができなかったため、地域の人から見た都農町の魅力や課題について聞くことができれば良かったと思った。(藤本)

それぞれのコメント

都農町内でも比較的地域資源の多い場所だと感じたが、我々世代のような車の運転ができない層は、なかなか町内の移動が大変であり、バスなどの公共交通機関も存在するが、なかなかわかりずらく、そういった層をいかに取り込むかが課題であると感じた。(上埜)

都農町では地域連携や地域密着型の取り組み、関係が多いと感じ、特に道の駅や喫茶たいむでそれを感じることができた。宮崎が車社会と言われるように、都農町も公共交通機関が乏しく、自身の交通手段を持つことが大事だと思った。(安藤)

基本的に歩きっぱなしで、休める箇所が少ないという印象を持った。道の駅や喫茶たいむなど地域とのつながりを強く感じる箇所も多数見られ、観光資源になりそうとも思った。(池田)

思っていたよりも人々の交流の場が多かった。しかし、折角いい場所があるのに、宣伝の仕方がもったいないと感じた。一目で「ここはこういう場所」で気軽に来れる場所というのが分かるように外観に工夫が必要だと感じた。(河野)

地域住民に支えられている場所が多かったといえる。国道10号線沿いは車通りは多かったが、横道に入ると少なく、子どもたちが遊んでいる様子が見られた。資料や写真ではわからない地域の雰囲気や人とのつながりについて知ることができた。(藤本)

